

授業改善

【本校が3年間で目指した授業】

習得した知識・技能を活用して課題解決するための思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくり

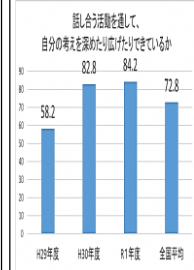
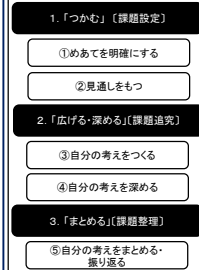
このような取組が効果的だった！

《取組1》思考力・判断力・表現力等を育てる「3段階5活動」の授業づくりの取組

- 課題を解決するために、1単位時間において、既習・既得の知識・技能を活用した課題追究を行う活動と話し合う活動、振り返り活動を位置づけた授業づくり

(成果)

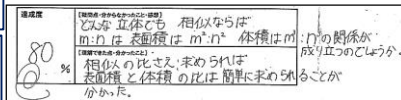
「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできているか」という項目に対して、この2年間の伸びが著しく、約85%の生徒が肯定的な回答をした。



【「3段階5活動」の授業】 【生徒アンケートの結果】

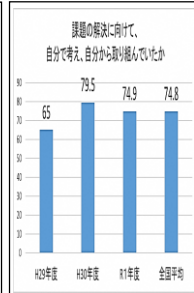
《取組2》単元・題材を貫く課題の設定（問いがつながる単元・題材構成）

- ① 1単位時間の授業での「問い(小さな課題)」の解決を積み重ね、単元を貫く大きな課題を解決させる展開により、「問い」がつながる単元・題材構成の工夫に取り組んだ。



振り返りにおいて、次時への問い(小さな課題)をもつ

【単元を通しての問いのつながり】



【既習・既得の活用】 【生徒アンケートの結果】

- ② 単元・題材を通して身につけさせたい課題解決力を明確化するとともに、単元・題材を通した「問いのつながり」や課題設定を図る単元・題材計画を作成した。

(成果)

「課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたか」という項目に対して、約75%の生徒が肯定的な回答をした。「問い」をつなげることで、思考力を深めることができた。

【考察】質的向上につながった本校の授業改善について

- 「3段階5活動」の授業スタイルが定着し、1単位時間の授業で、生徒が課題解決に向けて見通しをもち、自らの考えをもとに交流を通して考えを広げたり、深めたりして課題を解決し、振り返りにおいて課題解決に向けた学び方や考えを整理できるようになった。
- 単元・題材構成の工夫により、振り返りにおいて次の問い(小さな課題)をもち、その問いを解決しながら、単元・題材を貫く大きな課題の解決に向けて、主体的に学びに向かう姿や進んで既習・既得内容を活用する姿が見られた。
- 既習・既得内容や教科横断的な学習内容の活用により、生徒アンケートから、他教科との関連を考えたり、学んだことを活用しようとしたりする姿が見られた。

マネジメント

【本校が3年間で確立したマネジメント】

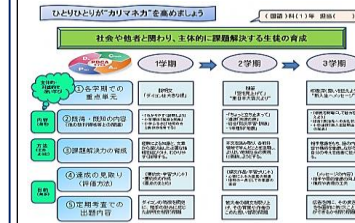
全教員の協働による学力向上に向けたPDCAサイクルを機能させるマネジメント

このような取組が効果的だった！

《取組1》重点単元によるPDCAサイクル表作成(カリキュラム・マネジメント)

- 課題解決力の育成に向けて、重点単元を設定し、既習・既得内容を活用した授業や定期考査問題や評価の見取りを踏まえた授業を実践し学期ごとに検証改善を行うPDCAサイクル表の作成(成果)

育てたい資質・能力や達成の見取りの明確化や教科横断的な視点によるカリキュラム・マネジメントが教職員のマネジメント力の育成に繋がった。



【重点単元のPDCA表(1年国語)】

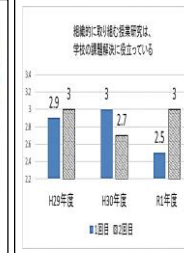
《取組2》学力向上に向けた研究組織体制の構築(組織マネジメント)

- 学力向上検証改善サイクルに学力向上プランの視点を各部会の取組として位置付け、研究推進委員会を部会代表から構成し組織化を図った(成果)

「組織的に取り組む研究は学校の課題解決につながっている」という問いに教職員の自己評価は4段階で平均3.0となり組織体制は有効であった。



【研究組織】

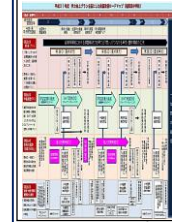


【アンケートの結果】

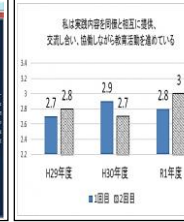
《取組3》PDCAサイクルの着実な実施(運営マネジメント)

- 学力向上検証改善ロードマップをもとに各研究部会で取り組み、検証・改善を行い、教務担当主幹が研究の方向性や進捗状況を管理した(成果)

「同僚と交流し合い、協働しながら教育活動を進めている」という問いに教職員の自己評価は4段階で平均3.0となり教職員の協働意識は高まった。



【ロードマップ】



【アンケートの結果】

【考察】効果につながった本校のマネジメントについて

- 重点単元によるPDCAサイクル表の作成及び教科部会による協議から、単元・題材を通して育てる資質・能力、達成の見取りなどゴールを見据えた授業改善や学期ごとの検証改善が進み、教職員一人一人のマネジメント力の向上につながった。
- 学力向上プランの5つの視点を授業改善部会(視点2)・学習基盤部会(視点3)・社会参画部会(視点5)に位置付け、各部会のリーダーを中心に取組を実践し、研究推進委員会にて進捗状況の把握や検証改善を行い、学力向上プランの実働化につながった。
- 毎月の校内研修や教科部会で学力向上の取組の成果と課題を共有しながら、全教職員の協働による研究や協議を行ったことで、教職員の協働意識の向上につながった。